

遺跡は宝物

安城市には、250か所を越える遺跡が確認されています。埋蔵文化財センターでは、平成20年度も多くの遺跡の発掘・調査をしました。ここではその中のいくつかの結果を紹介します。

問▼文化財課
☎77-4477

■姫塚古墳(姫小川町)

碧海台地の東端に立地し、東側の沖積低地を臨む位置に築造されています。現在は東西18m、南北20mの方形をしています。もともと方墳なのか、円墳が削られて方形になっているのかはわかっていません。

今回、古墳の西側と南側の宅地・畑の開発計画に伴い、古墳の広がりや確かめるために、それぞれの場所に幅1〜2mの細長い調査区を設定して発掘をしました。

調査の結果、両側に幅5m前後、深さ約1mの濠が見つかりました。おそらく台地と区画するために古墳の周りに濠を巡らせたもの(周溝と呼びます)と考えられます。濠の中からは鎌倉時代や室町時代の土器の破片が出土しましたが、古墳時代の土器や埴輪、葺き石は見つかりませんでした。二子古墳・姫小川

■本神遺跡(古井町)

碧海台地の東縁部に位置し、南・東側は堀内川により削られてきた開析谷(低い場所)に面しています。昭和39年にたかさんの土器が出土し、村を囲む濠(環壕と呼びます)が弧状に広がっていることが確認され、集落があったことがわかりました。また、近畿地方の土器が40点以上も見つかり、全国的にも注目を集めています。

今回の調査は、個人住宅建設に伴う発掘調査を2か所で行い、その結果いずれも弥生時代の終りころの竪穴住居跡・環壕の一部が確認されました。竪穴住居は可能性の高いものを含めて4棟検出。本神遺跡内の調査では初めての発見でした。また、環壕は昭和39年の調査で検出された溝の位置を再確認。濠の断面形は逆三角形で、底部は足がやつと入るくらいの幅しかあり

■塔之元遺跡(桜井町)

碧海台地の東縁部に近い位置に立地しています。歩道橋の設置に伴い調査が行われました。

上面では鎌倉時代を中心としたピット(柱穴)や土坑(穴)、溝を確認。明確な建物の跡は確認できませんでしたが、西側に隣接する中開道遺跡や寒池遺跡、円光寺境内地などでは、鎌倉時代から室町時代にかけての集落跡が見つかることから、この遺跡もこれらの遺跡と一体の中世の集落跡であったと考えられます。

下の地層からは、竪穴住居が2棟重なるように見つかりました。同時に立っていたのではなく、比較的近い時期に建て替えが行われたようです。規模は、1棟が3.8×4m、もう1棟が4.9×5m、ほぼ正方形の平面形です。いずれの住居も北壁の中央にか



塔之元遺跡発掘作業風景

■遺跡の調査にご協力を!

遺跡はわたしたちの過去の歩みを記録しているかけがえのないもの。一度破壊されてしまうと、二度と元に戻すことはできなくなってしまう。

埋蔵文化財センターでは、開発に伴い、やむを得ず破壊され

てしまう遺跡について、事前に発掘調査をしています。

個人住宅の建て替えの際の調査については、調査費用はかかりませんが、お気軽にご相談ください。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いします。

■出土品の行方

発掘調査によって出土した遺物は、埋蔵文化財センターで保管・展示しています。今回紹介した出土品も展示していますので、ぜひご覧ください。また、展示品を紹介するパンフレットを作成。無料で配布しています。

●展示日時 毎日午前9時〜午後5時

※(月、例)の翌日を除く。

平成20年度の発掘調査から



西側で見つかった周溝(奥の高まりが)姫塚古墳



姫塚古墳の推定復元図

古墳でも同様の濠が見つかり、姫塚古墳の周溝も、平安時代までは埋められずに残り、鎌倉時代以降に埋まり始めていったと考えられます。濠は、現在残る墳丘から少し離れて掘られていることから、本来は円墳で、後に削られたために現在のようになつた可能性が高いと考えられます。

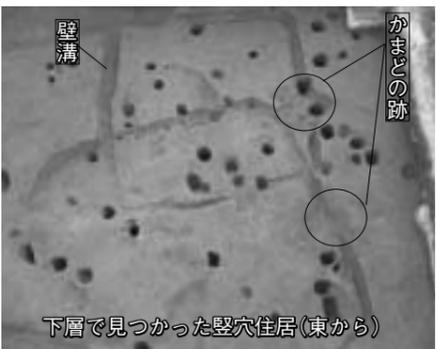


濠から出土した土器



本神遺跡で見つかった濠

ません。調査した部分の深さは1.1mですが、上面がかなり削られていることから、本来は2m以上はあったと考えられます。土器は多量に出土していますが、ほとんどが同じ時期のものであることから、弥生時代の終りころに一時的に集落が営まれ、何らかの理由で短い間に廃絶したようです。



下層で見つかった竪穴住居(東から)



上層で見つかった中世の遺構(北から)

まどの跡である焼土の塊が見つかりました。また、壁の周囲に浅い溝が巡っています(壁溝と呼びます)。出土した土器から、飛鳥時代の竪穴住居であると考えられます。この付近ではこの時期の住居が見つかっていなかったことから、集落を考える上で貴重な資料となります。



埋蔵文化財センター内展示スペース